

# ふるさと応援団・沖縄県国頭村



DATA

**KUTA** NPO法人国頭ツーリズム協会  
 国頭郡国頭村字辺土名245番地  
 TEL. 0980-5011600  
<http://kuta-okinawa.org/index.htm>

クータ  
**KUTA**  
 NPO法人  
 国頭ツーリズム協会

沖縄県国頭村は沖縄本島の最北端に位置し、約百九十四平方キロメートルに人口およそ五千六百人、二千四百世帯が海岸沿いに二十の集落を形成しています。村の八十四パーセントは森林で占められており、この森がつながる沖縄本島北部地域を「やんばる（山原）」と呼んでいます。その地域の中でも国頭村は、温暖な海洋性気候の中で独自に進化した多くの生き物たちが、今もなおその生態系を残しており、ヤンバルクイナ（天然記念物）やノグチゲラ（特別天然記念物）などの鳥類のほか、「やんばる」

る固有の両生・爬虫類、昆虫などは特に希少な生物として全国から注目されています。産業はサトウキビやパイナップルの生産を中心とした農業、漁業の他、沖縄本島では唯一木材生産を目的とした林業も営まれています。特に、「やんばる」地域では、琉球王朝時代から、薪炭材を中心とした林産物を沖縄本島の都市部へ供給しており、都市部と「やんばる」とは相互依存の関係にあります。しかし、化石燃料や外国産材の登場によりその相互依存の関係が絶たれると、国頭村の林業は次第に衰退していき、村は森林の新しい利活用方法はないものかと模索しはじめました。

こうした中、当時商工会青年部の部長を務めていた山川安雄さんを中心に、村内有志が集まり、エコツーリズムの勉強会がスタートしました。平成九年には、村のイベントの中で「森林ツアー」を実施し、四つのトレッキングコースを設定し募集をかけたところ、一時間ほどで百五十人の定員がうまるほどの反響を得ました。そしてその人気は、毎年上昇していきました。

しかしながら、「やんばる」への関心が高まると、人が入り込むことで起こる侵食被害が設立されると、自然体験型の観光に注目が集まるようになり、沖縄本島でもこの観光手法が広がりを見せはじめます。そして、多様性に富んだ生態系をもつ国頭村の森林ドとして注目を集めるようになったのです。

その「学ぶ場」は、平成十二年に、山川さんと国頭村を基点に活動する写真家久高将和さんの呼びかけにより、第一回国頭村人材育成講座としてスタートしたのです。さらに、平成十四年には、人材育成講座発足当時からファシリテーターとして参加していた大島順子さん（現在は琉球大学准教授）が加わり、三人を中心とした有志と共に「国頭村ツーリズム協会」が設立されました。



人材育成講座の講義風景



亜熱帯ジャングルカヌー体験

平成十二年から始まった人材育成講座は「KUTA」へ引き継がれ、今では年間二十回六十時間程度の講座を展開し、今年で八期目を迎えます。

地域資源を正しく理解し、地域づくりに主体的に参画できる人材の養成事業として、参加型ワークショップや、地域の宝探しと情報収集のフィールドワークなど数多くの共同作業を受講者同士が取り組みます。ツーリズムだけでなく、「やんばる」の自然

環境の中で生まれた生活文化や地域産業の活用について広く学びます。人材育成講座には、役員職員も参加しており、回を重ねるごとに全村的な活動へ広がりを見せはじめ、役場とのパートナーシップも進んできました。

また、人材育成事業の他「KUTA」では、環境教育・環境学習事業も行っています。地元小中学校の「総合的な学習の時間」で環境学習を指導したり、隣村にある沖縄県立辺土名高等学校の環境科の野外学習授業を担当するなど、次世代層への環境教育を進めています。

また、人材育成事業の他「KUTA」では、環境教育・環境学習事業も行っています。地元小中学校の「総合的な学習の時間」で環境学習を指導したり、隣村にある沖縄県立辺土名高等学校の環境科の野外学習授業を担当するなど、次世代層への環境教育を進めています。

「KUTA」が目指す「地域の宝は何かを理解し、伝えられる人づくり」の地道な活動は村だけでなく、村外へも着実に広がりを見せています。

昨年十月、村内の各分野の団体・個人が参加した「やんばる国頭の森を守り活かす連絡協議会」が発足したのです。これは国頭村の産業は貴重な自然環境に育まれた生活文化のもとで成り立ち、産業と地域環境は相互関係にあるという考え方に基づき、自然と共生しながら「持続可能な環境

昨年七月には、役場と「KUTA」のパートナーシップにより、全国各地初めての市町村立の環境教育センター「国頭村環境



「第1回沖縄県子ども環境サミット」の様子



国頭村環境教育センター やんばるの学びの森